

当たり前

柏市立柏第三中学校 第三学年 太田 陸馬

この数年間、新型コロナウイルスの影響で学校行事や休校、部活動の活動時間の短縮などこれまで当たり前前に思い、できていた活動が制限されている。僕はこのウイルスが蔓延し、休校になったとき、今まで当たり前前に学校に行けていたのに行けなくなってしまうって動揺を覚えた。ちょうどそのころ担任の先生がアフリカの貧しい子供と東日本で被災された方の関連した話をしてくださった。

「当たり前などない。」

その話の最後に先生がおっしゃった言葉だ。

この言葉には感銘を受けた。それから当たり前前について考え始めた。

僕の日常は朝起きて、学校に行つて、家に帰ってくる、そんなことの繰り返しだった。毎日のことだと当たり前前に思っていた。でも、そこには毎朝朝食を作ってくれる両親のありがたさがあったり、登校を見守ってくださっている地域の方々のやさしさがあったり笑顔で迎えてくださるあたたかい先生方がいらつしたりと何ひとつとして当たり前前にあることではないということに気が付くことができた。そして、この体験は僕に当たり前前なことなんてないのだなと気が付かせてくれた。

今まで当たり前前だと思っていたことを考え直すといろいろなことが見えてきた。例えば、進級するともらえる教科書のありがたさや、みんなが平等に教育を受けられる権利、通学時にも通える整備された道路、けがをしたり病気になるってしまったときに行く病院の医療費の一部を助成する制度など日々の生活は実にさまざまなものに支えられているのだと再認識した。考えているうちに公共のものは国や市町村のもと管理されられているため、先人の恩恵を感じるとともに税金のありがたさも感じられた。

税金は当たり前前を作り出すための源になっていると思う。みんなが少しずつ支払うことで社会のシステムやライフラインなどを形成する上で必要不可欠なものだと感じた。それと同時にこの日本という国の基礎となっていて地域を超えた人々の支えあいができるとも考えられる。自分も税金を払うことで社会の一員になれるようにしていきたい。

また、何ひとつとして当たり前前なことではないということは忘れてはいけないけれど、そんな便利で支えあえている社会をつくることに関わる仕事に将来就きたいと思うようになった。